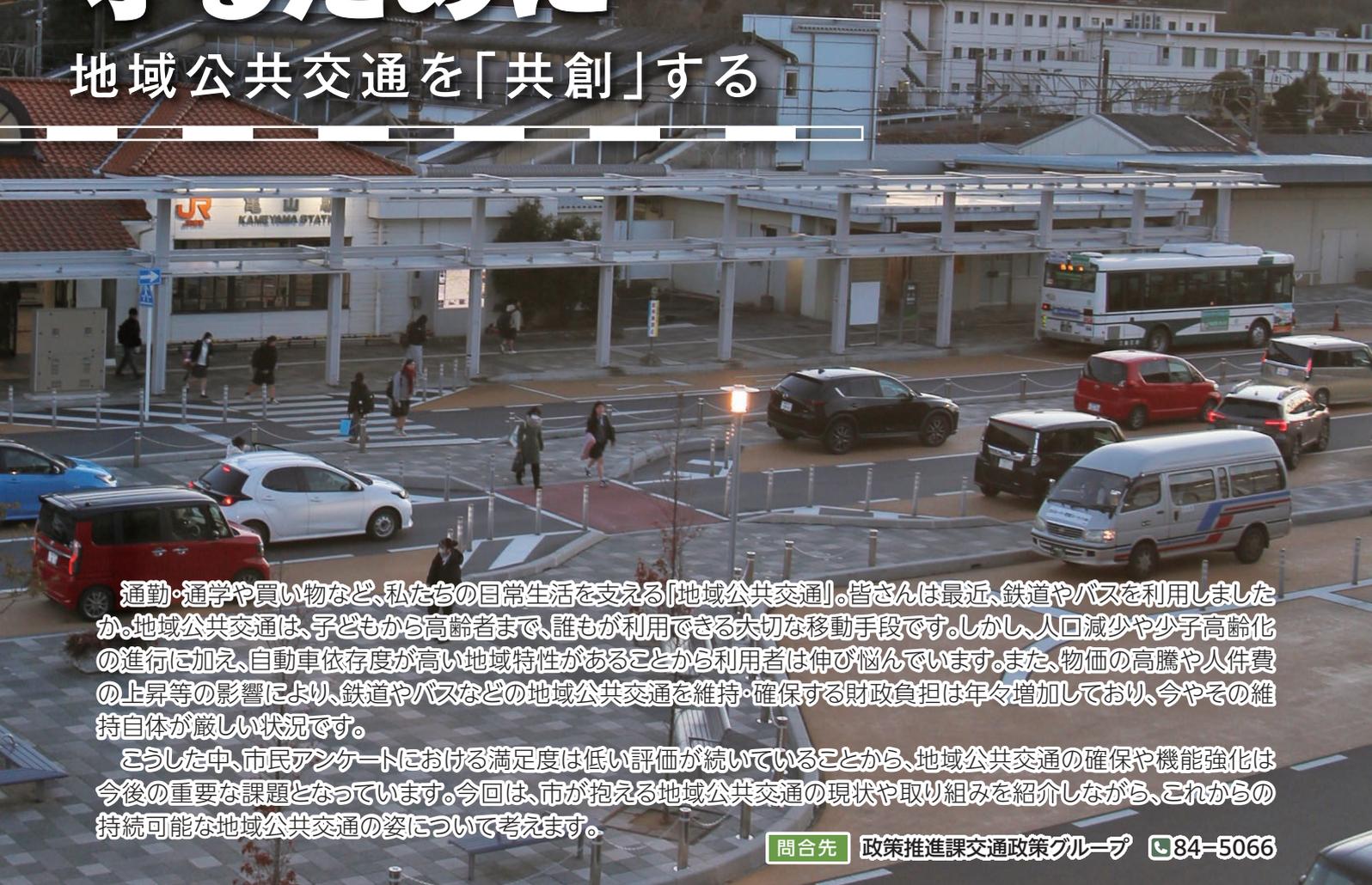


身近な 地域公共交通を 守るために

地域公共交通を「共創」する



通勤・通学や買い物など、私たちの日常生活を支える「地域公共交通」。皆さんは最近、鉄道やバスを利用しましたか。地域公共交通は、子どもから高齢者まで、誰もが利用できる大切な移動手段です。しかし、人口減少や少子高齢化の進行に加え、自動車依存度が高い地域特性があることから利用者は伸び悩んでいます。また、物価の高騰や人件費の上昇等の影響により、鉄道やバスなどの地域公共交通を維持・確保する財政負担は年々増加しており、今やその維持自体が厳しい状況です。

こうした中、市民アンケートにおける満足度は低い評価が続いていることから、地域公共交通の確保や機能強化は今後の重要な課題となっています。今回は、市が抱える地域公共交通の現状や取り組みを紹介しながら、これからの持続可能な地域公共交通の姿について考えます。

問合せ 政策推進課交通政策グループ ☎84-5066

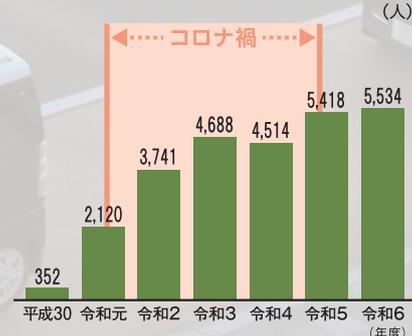
地域公共交通の現状・課題

市では、コミュニティバス路線の再編や乗合タクシー制度の導入を行い、自立した移動手段を持たない市民を中心に、地域公共交通の利便性向上と利用促進に取り組んできました。こうした中、市内の地域公共交通全体の利用者数は、コロナ禍前の利用水準まで回復していないとともに、一部のコミュニティバス路線では、低調な利用状況が続いています。一方、乗合タクシーの年間延べ利用者数は、増加傾向にあるものの、乗合率は約1.1人と伸び悩んでいる状況にあります。

■コミュニティバス利用者数（人）



■乗合タクシー（のりかめさん）延べ利用者数（人）



地域公共交通を再構築する



亀山市地域公共交通会議

座長 松本 幸正さん

Profile

名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授。平成3年名古屋工業大学大学院工学研究科博士前期課程を修了し、平成19年から現職。専門は交通工学・都市計画。公共交通や都市計画に関するフィールド調査や理論研究を遂行するとともに、亀山市をはじめ多くの自治体の地域公共交通会議や都市計画審議会の委員を務め、地域における計画策定や課題解決に貢献。



共創プラットフォーム

放っておくとなくなるかもしれない鉄道・バス・タクシー

皆さんが普段目にする鉄道やバス、タクシーなどの地域公共交通が、今どんな状況になっているかご存じですか？実は、利用者が減っていて、存続が危ぶまれています。このままですと、身の回りから地域公共交通がなくなってしまうことにもなりかねません。

亀山市をはじめ、日本の多くの都市では車が普及し、地域公共交通よりも車で移動した方が便利なまちの形になりました。ライフスタイルも、車中心になっています。加えて、人口、特に学生さんや働き盛りの人たちが減り続けています。このようなことから、地域公共交通の利用者は、どんどん減ってきているのです。その結果、便数が減ったり、廃止になったりしています。そうすると、自家用車に乗れない子どもやお年寄りたちの生活はどうなるでしょう。

地域の将来を背負う地域公共交通

車に乗れない子どもやお年寄りたちにとって、地域公共交通が不可欠であることは言うまでもなく明らかです。では、そういった車に乗れない人たちだけに必要なものなのでしょうか？車に乗れる人たちには関係のない話なのでしょうか？答えはNOです。

誰にとっても、地域公共交通は必要なのです。皆さんの周りから地域公共交通がなくなった場合を想像してみてください。運転免許証を返納した後の生活はどうなりますか？高校生や大学生はどう通学しますか？外出に困っているお年寄りの姿を目のあたりにし、自分だけでは好きなところに行けない「まち」からは、若者たちは出て行ってしまおうでしょう。そのような「まち」には未来がなくなってしまうのです。地域公共交通は「まち」の未来にとって不可欠で、他人事ではなく皆さんの問題なのです。

地域公共交通は「共創」の時代へ

間違いなく地域公共交通は「まち」に必要です。しかし、それを存続させることは容易ではありません。地域公共交通を走らせるためには、お金がかかります。自治体にはそのお金を出し続ける余裕もなくなってきています。もしお金があったとしても、ドライバーがいません。いくら走らせてほしいと自治体に要望を出しても、もう走らせられないのです。

これから求められるのは共創、ともに創っていく姿勢です。地域の皆さん、交通事業者、自治体が力を合わせ、一緒になって考え、得意な分野の役割を担って取り組んでいくという姿勢です。全体の経費は落としつつ、かゆいところにも手が届くような交通、買い物や通院といった必需だけではなく楽しみでも使える交通、今よりも便利な交通の実現も夢ではありません。共創によって、地域にふさわしい地域公共交通の再構築が求められています。

私たちの移動を支える

身近な地域公共交通

市内の公共交通について
詳しくはこちら



市内では、鉄道(JR関西本線・JR紀勢本線)を中心に多様な交通手段が運行されています。市域をまたぐバス路線3路線(亀山国府線・亀山みずほ台線・亀山棕本線)、工業団地へ向かうバス路線1路線(亀山関工業団地線)、コミュニティバス7路線(さわやか号・野登ルート・白川ルート・東部ルート・南部ルート・西部ルート・加太地区福祉バス)、関南部地区スクールバス活用バス、乗合タクシー(のりかめさん)、一般タクシーが運行し、市内の公共交通ネットワークを形成しています。

鉄道



東西方向には関西本線、南部には紀勢本線が機能しています。

コミュニティバス



公共施設や鉄道駅など、地域の生活圏内の移動を支えています。

乗合タクシー



主に75歳以上の高齢者を対象に市内全域で運行しています。

地域公共交通の「共創」 ～三位一体の取り組み～

地域公共交通は、住民の移動を支えるだけでなく、まちの持続性にも深く関わる重要な仕組みです。コロナ禍を経てライフスタイルや移動ニーズが多様化する中、地域住民・交通事業者・行政が協力し、それぞれの現状や課題などを共有しながら、持続可能な地域公共交通をリ・デザイン(再構築)し、支える仕組みづくりが求められています。

地域住民

亀山市地域公共交通会議



亀山市地域公共交通会議
副会長
野村 幸生さん

Profile

亀山市自治会連合会理事、川崎地区自治会連合会支部長、川崎地区まちづくり協議会副会長などを努め、幅広い分野で活躍。



川崎地区バス乗車体験

地域の暮らしに合った公共交通にしたい

私の住む地域では、人口や子どもが増え、高齢化も進み、路線バスや乗合タクシーは買い物や通院、通学などにおいて、また、車を持たない高齢者の生活において、欠かせない移動手段です。しかし、学生の通学時間とダイヤが合わない、運行が片方向だけで不便、バス停が自宅から遠いなどの課題もあり、利用しやすいの向上が求められています。

単に路線を維持するだけでなく、生活パターンに合わせたダイヤや停留所の位置の見直しなど、行政と交通事業者が連携しながら、「乗りたいときに乗れる」ような地域の実情に合った使いやすい公共交通にする必要があると思います。

なくさないためには、まず利用することが大切

川崎地区の定例会などで、75歳以上の方に乗合タクシーを案内するほか、年に1回、川崎地区の自治会長が実際にバスに乗車し、バスや乗合タクシーの利用状況を踏まえ、市と地域公共交通に関する意見交換を行っています。また、市内のイベントをバスの時刻に合わせて開催し、バスで参加しやすくするなど、地域ぐるみで利用促進に取り組む必要性も感じています。

私たち一人ひとりが「公共交通をなくしてはいけない」という意識を持ち、使い続けて守っていくことが、地域公共交通を将来へつなげるために最も重要だと思います。

交通事業者

三重交通株式会社



三重交通株式会社
企画部部长 兼
新交通サービス推進課長
バス営業部部长(乗合)
小瀬古 恵則さん

Profile

亀山市を含む中勢地域の路線バス運行を統括し、安全運行とサービス向上のため、運行管理、ダイヤ編成、利用促進などに取り組む。



バス利用促進イベント

県内のバス利用者は4分の1まで減少

高齢化の進行や自家用車の普及により、県内のバス利用者は、昭和40年代のピーク時から4分の1まで減少しています。また、運転手の担い手不足などから、路線バスの維持は年々厳しさを増しています。現在、亀山市域では、「バス停まで遠くて歩けない」との高齢者の声を受け、小型バスで住宅地の奥まで入り、鉄道や幹線バスにつなぐコミュニティバスが運行されています。当社では、これからの交通手段として、デマンド交通や自動運転など新たな仕組みの研究に取り組んでいます。

地域住民・交通事業者・行政の「共創」で、持続可能な地域公共交通を実現

地域のニーズに応じた交通サービスの実現を目指し、地域住民・交通事業者・行政が三位一体となり、それぞれが抱える課題を共有し、解決することを目的とした「共創プラットフォーム」のワークショップに参画しています。

地域公共交通は、自家用車が使えなくなったときの私たちの暮らしを支える社会基盤です。水や電気と同じように、地域公共交通も生活に欠かせない存在です。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、一人ひとりが「自分たちのバス」という意識を持ち、積極的にバスを利用いただくことが地域公共交通を持続させる大きな力となります。お出かけの際は、ぜひバスをご利用ください。



政策課交通政策グループ
グループリーダー

服部 任之



関西本線実証運行お出迎えの様子

持続可能な地域公共交通のリ・デザイン(再構築)に向けて

市では、令和4年度に策定した亀山市地域公共交通計画に基づき、鉄道やバス等の利用者数をコロナ禍前までの水準に回復させるため、バスの乗り方教室の開催や観光列車の実証運行など利用を促進してきました。また、利便性向上のため、鉄道会社への要望活動やバス車両の新型化などの施策を進めてきました。しかし、鉄道やバスの利用者数はコロナ禍前まで戻らず、市が運行するバス路線や乗合タクシー運行経費は、年々増加しています。このような状況から、地域公共交通のあり方そのものを見直す必要があると考え、令和5年度から現状把握やデータ分析などを進め、本市に合った交通体系の検討を始めました。本年度からは、国や県の支援を受けながら、地域住民・交通事業者・行政の現状や課題を共有し、持続可能な地域公共交通のリ・デザイン(再構築)に向けた共創の取り組みを進めています。

亀山市は、かつて東海道の宿場町として栄え、現在も高速道路や国道などが交差する交通の要衝であり、自家用車で移動しやすく、利便性の高い地域です。このような特性も踏まえつつ、三位一体となった共創の取り組みを継続し、真に移動が必要な方々に地域公共交通を提供し、誰もが住み続けられるまちの実現を目指しています。

地域公共交通の利便性の向上や利用促進に向けた主な取り組み

交通空白解消のための共創型のリ・デザイン事業

この事業は、地域住民・交通事業者・行政が一体となった「共創の場」をつくり、市の地域公共交通の将来像を考える取り組みです。公共交通に関する理解や知識の習得を図り、効率的で効果的な地域公共交通ネットワークのリ・デザイン(再構築)に向けた方向性を整理することを目的としています。

昨年11～12月に、市民アンケートや、バス利用が低調な亀山南部地区・亀山西部地区の沿線地域をモデルとしたワークショップを実施しました。多様な視点から交通の課題を検討し、地域の特性に応じた新たな交通手段の導入検討や、既存の公共交通との最適化など、持続可能な地域公共交通体系のリ・デザイン(再構築)に向けた方向性を確認しました。



観光列車「はなあかり」実証運行

令和7年11月12日・26日、12月3日に、京都駅から伊賀上野駅・関駅を結ぶ観光列車「はなあかり」の実証運行が行われました。

これは、三重県、JR西日本、伊賀市、本市で構成する「関西本線活性化利用促進三重県会議」が進める取り組みの一つで、関西方面からの誘客や利用促進を通じた沿線地域の活性化を目的に実施しました。



各種地域公共交通の路線や時刻、利用方法などについて、詳しくは次の連絡先へお問い合わせください。

政策推進課交通政策グループ

☎ 84-5066

✉ kotsu@city.kameyama.mie.jp

路線バス(運行会社)

三重交通株式会社 中勢営業所

☎ 059-233-3501

鉄道

JR東海 ☎ 050-3772-3910

JR西日本 ☎ 0570-00-2486

タクシー(市内)

亀山交通株式会社 ☎ 82-1228

小菅タクシー有限会社 ☎ 82-2238

今回の特集記事について
感想をお聞かせください!

